

| | | | | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----|------|--------------------------------------------|------|
| カンキツ黒点病適期防除のための簡易雨量計の必要性 | | | | | |
| [要約] 降雨が多い場合には、各圃場や気象台で観測される降雨量の値に大きな差が生じる。このことから、圃場ごとに降雨量を簡易雨量計(防除適期判定雨量計)で計測することで、カンキツ黒点病の適期防除が可能となる。 | | | | | |
| 果樹試験場・病害虫研究担当 | | | 連絡先 | 0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp | |
| 部会名 | 果樹 | 専門 | 果樹病害 | 対象 | カンキツ |

[背景・ねらい]

カンキツ黒点病の防除の指標として、薬剤散布後の積算降雨量が利用されている。現在、防除指導は気象台のデータをもとに行われているが、雨の降り方は距離があまり離れていなくても大きく異なることが経験的に感じられている。そこで、個別の圃場での積算降雨量の計測が重要であることを示すために、比較的狭い範囲の複数地点で計測した積算降雨量と、気象台の観測データとを比較する。

[成果の内容・特徴]

- 1 気象観測装置（果樹試験場内設置）と気象観測装置から約 50m 離れた地点にある簡易雨量計(防除適期判定雨量計・写真 1)で計測された降水量に大きな差は認められず、簡易雨量計の精度は問題がないと考えられる。
- 2 比較的近距離にありながら山を隔てたところに位置する 4 地点（7 km 以内）において簡易雨量計で降水量を比較した結果、降雨が多い場合に地点間の降水量に差が認められた（6/24～6/29：最大差 80mm，7/6～7/15：最大差 170mm）。また、本地域に一番近い気象台（佐賀市、A 地点から約 13km）の降水量データと大きな差が認められる（第 1 表、第 1 図）。
- 3 佐賀県では現在カンキツ黒点病の防除として、薬剤散布後 1 ヶ月または積算降雨量が 200～250mm(マシン油乳剤加用時は 300～400mm)に達した時点を次回の散布の目安としている。今回の調査から、一番近い気象台の観測値と各圃場の降水量は大きく異なる場合があり、気象台の観測値を目安としても防除の遅れにつながる懸念される。
- 4 以上のことから、黒点病の防除は、気象台の観測値に頼るのではなく、できる限り各圃場に簡易雨量計を設置することで適期の防除が可能となる。

[成果の活用面・留意点]

- 1 近距離にあっても、地形等により雨の降り方が異なることから、適期防除のためには簡易雨量計をできる限り圃場ごとに設置することが望ましい。
- 2 写真 1 に示したマシン油乳剤の空き容器を利用した簡易雨量計の制作費用は 1,000 円程度（ロート代のみ）で済む。

[具体的データ]



写真1 簡易雨量計



第1表 地点別にみた降水量の比較 (2010年)

| | | 6/24 | 6/29 | 7/6 | 7/15 | 7/21 | 8/31 |
|--------------------|-----------|-------|-------|-------|------|-------|------|
| 簡易雨量計 での計測比較 | A | 200mm | 120mm | 500mm | 90mm | 140mm | |
| | B | 210 | 110 | 570 | 110 | 150 | |
| | C | 220 | 100 | 540 | 90 | 140 | |
| | D | 280 | 90 | 400 | 70 | 140 | |
| 地点間最大差 | | 80 | 30 | 170 | 40 | 10 | |
| 気象台データ | (佐賀市) | 175 | 89 | 295 | 31 | 87 | |
| (参考) ¹⁾ | 佐賀県 果試 | 191 | 107 | 504 | 73 | 132 | |

1)気象観測装置(A地点に最も近い:約50m)のデータ

[その他]

研究課題名：カンキツ黒点病適期防除のための簡易雨量計の必要性

予算区分：国 補 発生予察調査実施基準の既存改良事業

研究期間：2010年 (2010年～)

研究担当者：野口真弓・井手洋一・口木文孝

発表論文等：なし